

平成30年度 項目別の自己評価表

1. 学校の教育目標

キャリア教育・職業教育と人間性の涵養に努め、一人一人の自立を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

自立した人間性を育成し意識の向上につとめ、自らの考えを提案できる機会を作り自主性を高められるよう、取り組みを行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|---|-------------------------------|---|---|---|
| ・ 創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 職業とキャリアを重視した教育がなされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

成果は、特別教育活動として全国コットンサミットinいわきでの会津木綿を用いた衣装デザインと制作、ファッションショーの他、Fukurum基金の取組で行った日本橋での地場産織物の洋服や小物・雑貨の販売などが挙げられる。企画や制作を通して、より専門的で具体的な実習につながり、職業教育、人材育成の一助となった。

課題は、本校で「職業とキャリアを重視した教育」を考えて指導しているが、今年度の就職率や、在校生アンケートの回答等を鑑みるに、学生の職業への意識が近年薄く、カリキュラムを通して「自分の適性」「将来のキャリア形成」をより深く掘り下げて思量させる必要があった。

② 今後の改善方策

引き続き企業との連携を図り、その中で製作・流通・販売など多岐にわたる職種の紹介や、キャリア教育として「自己分析」「適性判断」「キャリア形成計画」、それらを踏まえた上での就職活動など、きめ細かなカリキュラム細部の見直しと広範化を行っていく。

(2) 学校運営

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|--|-------------------------------|---|---|---|
| ・ 校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 運営組織や意思決定機能は毎朝の職員会議等で諮られて納得して十分機能しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

| | | | | |
|----------------------------|---|---|---|---|
| ・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
|----------------------------|---|---|---|---|

① 成果と課題

成果として、事業計画と年間スケジュールを綿密に立てた上で、突発的なイベント依頼等も計画内に組み込み、共通理解と相互協力のもと進行できたことが挙げられる。

ただし課題として、校務分掌の役割分担、遂行などにはやや滞りが見られた。

② 今後の改善方策

改善の方法として、「なるべく分掌の重複を減らす」「各自の校務の効率化」が挙げられている。分掌の多重を減らし、それぞれに割り振られた役割を見直し、校務の責任を果たしたかを確認することで、一人に負う分掌の分散と責任の明確化を図る。校務の効率化として、各校務に於ける見直しの他、校務内容のマニュアル化、各校務係からの連絡を職員間で密にし会議時間にしっかり話し合う、各種ツール等の導入などを試み、校務の進行速度を速める。

(3) 教育活動

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|---|---------------------------|---|---|---|
| ・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携事業）は体系的に位置づけられているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

成果として、個々の学生に合わせたカリキュラム進行や目標設定がある。また、教育課程編成委員会を通してカリキュラムの内容策定が行われ、それに沿った授業が為された。

課題としては、人材育成目標達成に向け、授業を行うことが出来る要件を備えた教員になるための反省が挙がった。適時カリキュラムが見直されるのに加え、世間の時流によるニーズの変化などもあり、授業内容が多様化していることは、コースを細分化することも考えられるので、今後の検討課題である。

② 今後の改善方策

各教員の自主研修の他に、教職員研修で補える範囲とそれ以外の範囲を見定め、特殊技術に関しては、講師を依頼するなどの対策も肝要である。企業と連携しカリキュラムに即した内容の教職員研修を行い、適宜教職員の知識・技量の向上を図る。

(4) 学修成果

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|--|-------------------------------|---|---|---|
| ・ 就職率の向上が図られているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 資格取得率の向上が図られているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 退学率の低減が図られているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

成果として、在校生の活躍や、卒業生の社会で認められる仕事での活躍を広く校内に周知し、在校生のキャリア形成の意識付けの一助としたことが挙げられる。

課題として、就職率の低下、家庭経済事情等による退学率低減の停滞などがある。就職率に関しては学生本人の自己分析の弱さ、就活への取組姿勢も挙げられる。教職員からの働き掛けや適時のヒアリング、サポートなどにあまり時間をかけられなかった。退学率低減の停滞に関しては、個々の学生の家庭経済の理由、心身的理由などで退学もやむを得ない場合があった。

② 今後の改善方策

今後の対策としては、学生一人一人に対する面談、保護者との面談などを適宜実施し、本人のキャリア計画、適性、能力、家庭経済、心身に於ける状況把握に努める。情報収集や教職員間の共有、相談などを経て各人に対する対応を考え、実行していくことにより、就職率の向上、資格取得率の増加、退学率の低減を試みる。

(5) 学生支援

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|--|-------------------------------|---|---|---|
| ・ 進路・就職に関する指導・支援は行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 学生相談に関する体制が整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 保護者会と適切に連携しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

成果としては課外活動に対する支援体制の整備がある。今年度実施した様々なイベントは元より、学生個人からの要望や活動に関しても支援が行われた。

課題として、就職活動を控える学生に対して、進路相談の回数や求人情報の公開など、改善す

ることによって学生の不安を除き、就職率の向上を見込む部分がある。

② 今後の改善方策

対策として、早い時期からの進路相談を行い、キャリア形成の授業の一環として「自己分析」「求人情報の解析」「就活の流れ」「自己PR」を系統立てて講ずる。また求人情報のより広範な開示と、求人情報を収集するツールの活用を行い、学生本人の主体性育成とともにサポート体制の強化を試みる。

(6) 教育環境

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|---|---------------------------|---|---|---|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・防災に対する体制は整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

成果として、防災に対し年間を通して避難訓練の実施や、校内の防災設備に関する定期的なメンテナンスなどに取り組んだ。

課題は、今年度持病のある学生に対しての校内での休養、体調面の相談など、専門的なサポートに応じられるような医学的な知識や情報が少なく、困惑することがあった。

② 今後の改善方策

十全な状態に近づけるとともに、教職員間での情報共有や、救護訓練や研修の受講を通し、知識の増強と対応の応変を試みる。家庭との連絡を密にし、常に体調を整え、自己管理ができるよう導く。

(7) 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|--|---------------------------|---|---|---|
| ・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・学生募集活動は、適正に行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・学納金は妥当なものとなっているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

成果として、今年度は昨年度から引き続き、株式会社リクルートが運営するリクルートスタディサプリに登録・連携したことにより、資料請求の件数が大幅に向上した。それに比例してオープンスクールへの来校者が増加した。新規に学生募集人員を増やして徹底を図った。

課題としては、来校者が増加したものの入学に至らなかったケースがあったことが挙げられる。この点に関しては、高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組にも関連し、進学の手となる情報の発信が弱かったと推測される。

② 今後の改善方策

本校の教育内容について積極的に紹介し、理解されるよう努力する。学生募集の対象者である現在の高校生や既卒者が、各種のツールを使用して情報収集し、オープンスクールに参加せずに早期に進学先を決める傾向が強くなっている。その傾向を鑑みて、インスタグラムやツイッターなど、情報発信するそれぞれのツールを更に活用し、魅力を前面に打ち出していくことで、興味を惹いたり進学決定の後押しをしたりする一助として大いに活用する。

(8) 財務

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|----------------------------|-------------------------------|---|---|---|
| ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

事業内容等も含めた財務情報について最新の情報公開を行う。

② 今後の改善方策

解り易い財務の情報公開を行い、安心して入学、学修する資料とする。

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|------------------------------------|-------------------------------|---|---|---|
| ・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

自己評価等の実施を積極的に行い、改善点を明確にしていく

② 今後の改善方策

自己評価結果に基づいて、改善し最新の情報公開を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | | | |
|---|-------------------------------|---|---|---|
| ・ 学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）を積極的に実施しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

① 成果と課題

成果として、地域に対する公開講座の一環として、7月開催の「ものづくりふれあいフェア」、9

月開催の「こおりやまみらい☆シティ」でロゼット作りやデザイナー体験などを実施し、教育内容の周知に努めた。

② 今後の改善方策

今後の改善点としては、カリキュラムの充足に伴う日程の調整が挙げられる。参加によるカリキュラム進行への影響がないかを慎重に吟味し、参加する人数や参加方法などを決定する。

(11) 国際交流（必要に応じて）

| 評価項目 | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 |
|---------------------------|--|
| ・ 留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか | 4 3 2 1 |

① 成果と課題

課題として、留学生の受け入れ、また留学生としての派遣が今年度はなかったことが挙げられる。

② 今後の改善方策

積極的に英語など多言語での情報発信に取り組み、留学生の受け入れのみならず、留学生としての派遣などを行っていく。